

大阪府御免

内外新聞 第六

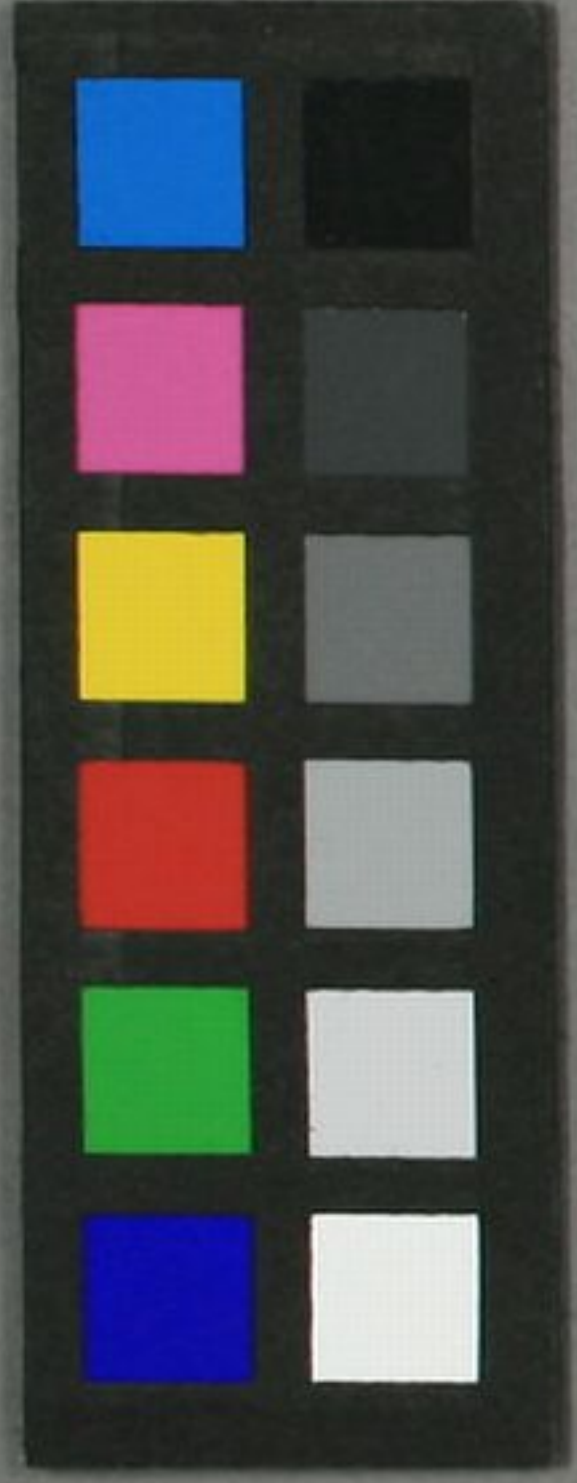
慶應四戊辰五月知新館

西垣文庫

文庫10

7348

6



特 文庫10
7348
6



内外新聞第六

神戸新聞譯

第六月廿五日
我五月六日

今度神戸ニ於テ病院御取建ニ相成候上ハ居留

外國人モ亦差支ナク療養ヲ許スベキ旨ヲ役人

ヨリ通セリ

○病院御取建地所ハ外國人墓所ノ東方ニ當リテ

其四方ニ垣ヲ圍ルベシ尚委細ハ追々示スベシ

○米國軍艦ヒスカタクユー各水師提督ロアン各乗組

當月十九日長崎ニ碇泊シテ不日横濱ニ赴クベキ由也



○此項墓所邊ヲ徘徊セシニ當春大坂港口ニテ米國
軍艦ハルトホルド各乘組溺死セシ數名ノ墳墓奇麗
ニ出来セシヲ見タリ

商用告知

○入港品物先日ヨリ惣テ相カハラズ日本商人ハ
當時大坂ニ居リ先日ヨリノ霖雨ニテ運送物等コレ
ナシ

○金巾價ハ横濱ニ於テハ相カハラズ相場書先日ノ
如シ

○武器ハ當時北方追々鎮靜ニ成之故注文類モ沙汰
ナシ

○生糸大約二十五百斤大ケ先日ノ價ヨリハ少々下直ニ
テ買込ノ約定セリ併當港持込ノ品ハ霖雨ニ至テ僅
ナリ又未ダ買手無之僅ノ品物アリ

○茶ハ大坂ニテ新茶ヲ貯ルノ風聞アリ

○先日ヨリ僅ノ茶トイヘドモ高價ニテ買込タリ且
或人ヨリ二万斤ノ賣茶アルヨシヲ聞得タリ

○新茶賣人コノ間ヨリ追々當地エ着セリ併價高キ

ユへ買人未夕返答セス當地ニテノ相場ハ横濱ヨリト
ハ高シ横濱ニ於テ極上新茶百斤ニ付二十七ドルヨ
リ三十ドル迄ナリ

○當時賣買ナケレバ諸色相場書名目バカリナリ

○不日蠶卵紙賣買ノ時ニ至レリ先ツ青卵一枚ニ付
價一兩ヨリ一兩一分ニテ約束セリ但シ其紙数高ノ半

ハ金ヲ以テ買ヒ半ハ品物ト交易スベキナリ

同 第六月廿七日
我 五月八日

○過シ六ヶ月ノ間ハ内地不穩種々ノ珍事件多シ今

其大畧ヲ記ス

○大坂兵庫開港ノ儀ハ其以前衆人期限ヲ疑惑セシ

ト雖モ終ニ開港ヲ世界ニ布告セリ

○両港開ケシ以前第一月一日ノ條約期限ニ違ハシ事

ヲ疑ヒ政府ヲ責シトノ企ニテ密ニ英米二國ノ軍艦数ヲ

神カノ港ニ来リシニ幸ニシテ難ナク港ノ初メテ開ケシ

ヲ右ノ軍艦ヨリ廿一發ヅ、砲發シテ税セリ又陸地ニ

テモ各國コンシユル館ヨリ國旗ヲ揚テ税セリ

○後程ナクシテ大政大變革ノ時トナリ一橋徳川ハ

將軍職ヲ返上シテ大坂城エ引取レリ 統テ戦争ニ及
ビ終ニ敗北ニテ江戸エ飯府スルニ及ブ

○日本大皇帝ハ自ラ政權ヲ執ノ令ヲ全國エ布告セラレ

太政官ヲ嘗マレ又開港地エハ夫々官舎ヲ取建ラレリ且

又此時條約取結ビシ各國エ

勸慰ヲ趣ヲ布告セラレシ

○當時政府ニ於テ大坂港口ノ船路綿密ニ結構ナキニ

ヨリ第一月十一日米國ノ豪雄ナル水師提督某并ニ十

人ノ水夫等此川口ニ於テ波浪ノ為ニ舟ヲ覆没シ終ニ

非命ノ死ヲ遂タリ爰ニ於テ外國人一紡其不幸ノ災

害ヲ哀傷セリ

○統テ又京坂不穩ヨリニテ大坂在留ノ外國人ハ盡

ク逃去レリ

○北方軍艦ハ兵庫港ニテ南方軍艦ヲ取囲ノリ 徳川軍

薩列ノ軍艦ニ発砲

○南方軍艦ハ逃去リ北方軍艦ハ江戸エ出帆セリ

○第二月四日備前兵隊ト英兵ト大坂街道ニ於テ争ニ

アリシ

○英米二國ノ兵ヲ以テ神戸ヲ固メシテ

○京師ヨリ當港ニ勅使着ノリ続テ鎮定セシテ

○森山某旧幕ノ臣カ并ニ後士等江戸エ出立ノリ

○第三月二日備前兵隊司令士池田伊勢列頸ノ事此

人司令官トシテ外國人エ砲發スベキノ令ヲ下セル咎ニ

依テナリ

○同十五日外國人再ビ大坂官舎ニ立戻レリ

○後又堺港ニ於テ外國人ヲ暴殺セシテ

○京都ニ於テ

大皇帝エ拜謁セント参内ノ途中浪人共警固ノ

士エ乱暴ニ及ヒシテ

○英國全權公使ハルリーパークス江戸エ出立ノリ

○大政復古ノ初ノ煩雜ニテ諸人通商スルニ能ハズ其後

稍鎮靜シテ商艦等モ来着セシテ報知セリ

○ハルリーパークスヨリ

大皇帝エ存書ヲ建白セリ此ハ日本人ハ勿論外國人ニ

テモ甚ダ懇親ノ至リナリト云

○余等大坂兵庫ノ兩港此後ノ勢ヲ考ルニ大坂ハ交易

第一ノ場所ト成ベシ唯願クハ日本人追々外國人ト馴
 合ヒ旧習ノ惡風ヲ改メ盛ニ通商ノ行レニテラ
 ○大政凌革等ニ就キ暫時ノ間万機癡絶セシカ故ニ
 無擾居苗地今以テ成就セザルヲ筆記スルハ余等甚
 悲痛ノ思ヒヲ成セリ此後ハ一日モ早ク成就シ且兼テ
 歎息セシ支件ノ恢復ヲ見ンテ頻リニ願フ所ナリ
 ○後六ヶ月ハ万宜キニ赴キ過シ六ヶ月ノ憂度ニ
 平均センテヲ願フ
 ○頃日外國人ノ家作且日本人ノ開店等惣テ改譯ノ

赴ヲ見レバ粗後來ノ有様ハ推察セラレリ
 ○余等今當港ト上海ノ間ヲ往來シ長崎ニ立寄ル
 ベキ蒸氣船ヲ製センテヲ企居レリ
 以上

大坂新聞

○旧幕府軍艦の内富士山と唱ゆる船ハ尚五月
 九日神戸表に着船せし由余の軍艦開陽廻天
 其外二艘斗ハ徳川氏に社下墨余ハ其々
 朝廷又附屬せし由の風聞

○今般政俸職判河政_付

大坂裁判所總督_免

大坂府知事_免 伴_付

日判_免

播磨攝津守那村支記兼_兼

日判_免

日判_免 堀左衛門

日判_免

播磨攝津守那村代_免

醍醐大納言

岩下佐次_免

長谷川仁太_免

小河孫左_免

税所長在_免

伊月在_免

内海多次_免

○和忍初_免 奉堂_免 坊舎_免 十九六_免 新_免 殊_免 町家_免、
大半_免 流_免 失_免 せる_免 由_免 大和_免 分_免 為_免 する_免 人の_免 居_免 たり

京都新軍

○弟_免 四_免 編_免 又_免 布_免 若_免 せ_免 一_免 五月_免 朔_免 日_免 淀_免 川_免 筋_免 難_免 船_免 の_免
時_免 乘_免 組_免 の_免 内_免 又_免 中_免 京_免 又_免 任_免 め_免 る_免 人_免 なる_免 が_免 金_免 子_免 六_免 百_免 兩_免
亦_免 持_免 一_免 々_免 大_免 坂_免 より_免 け_免 船_免 又_免 乘_免 り_免 一_免 が_免 兼_免 て_免 不_免 通_免 乃_免
用_免 公_免 せ_免 一_免 々_免 携_免 へ_免 一_免 々_免 船_免 の_免 内_免 に_免 金_免 子_免 四_免 百_免 兩_免 と_免 入_免 れ
繩_免 子_免 七_免 股_免 と_免 結_免 り_免 條_免 の_免 繩_免 を_免 長_免 く_免 して_免 兼_免 俸_免 又_免 結_免 び
付_免 残_免 る_免 二_免 百_免 兩_免 金_免 子_免 八_免 兩_免 巻_免 又_免 納_免 め_免 疾_免 く_免 衣_免 袴_免 も_免 税_免

へきまなしてそ船の渡るや言や張る大河を游
ごころ陰又遠上りける時衆徒の者溺せぬやう
ふたり付くる者三人とを救ひける由水練をゆ
まし救するべけれ共心構のよれは依て人命四ツと令
子六百兩を金くせし高運の人なりそ経ふと名ハ
すねりさりし

○洛東祇園社牛頭天王の神号は瘡止りてたの
通て心は肯祇園今祭式のみよ就て小舎人雑色
より氏子の所には通達せり

神速素盞鳴尊

八柱御子命五男三女柱命
榊稻田媛命

五月廿四日
羽呂より書状申候

○去月十日真呂仙臺表より羽呂庄内征討費
向指揮下致方総督府より申達お成古多疎産
大山格助會計方と藝林丸馬左弁并義長共
隊率より申三郷様共二十日仙臺内祭席同
夜増田宿陣法両郷様ハ此組より申滞陣十四日

不^レ此^レ登^レ途^レ是^レより羽^レ及^レ湯^レ乃^レ日^レ夜^レ村^レ田^レ宿^レ陣^レ十^レ又^レ日
 笹^レ谷^レ宿^レ陣^レ以^レ不^レ真^レ羽^レ及^レ圍^レ之^レ地^レ畧^レ之^レ以^レ十^レ六^レ日
 新^レ山^レ宿^レ園^レ後^レ寺^レ以^レ宿^レ陣^レ十^レ七^レ日^レ山^レ形^レ據^レ下^レ以^レ是^レ
 水^レ井^レ上^レ山^レ伊^レ豆^レ守^レ以^レ宿^レ陣^レ十^レ八^レ九^レ日^レ以^レ宿^レ陣^レ
 志^レ取^レ陣^レ中^レ宿^レ陣^レ十^レ九^レ日^レ天^レ臺^レ以^レ宿^レ陣^レ
 大^レ津^レ宿^レ陣^レ十^レ日^レ以^レ宿^レ陣^レ十^レ一^レ日^レ尾^レ死^レ沢^レ以^レ宿^レ陣^レ
 廿^レ三^レ日^レ新^レ庄^レ表^レ以^レ宿^レ陣^レ
 右^レ先^レ日^レより庄^レ内^レの^レ城^レ後^レより^レ領^レ界^レ清^レ水^レ口^レに^レ八^レ百^レ人
 練^レ出^レ兵^レ防^レ戦^レと^レ相^レ立^レ敵^レ軍^レを^レ破^レり^レ戦^レ死^レす^レ村^レ同^レ夕
 清^レ水^レ口^レに^レ八^レ百^レ人
 練^レ出^レ兵^レ防^レ戦^レと^レ相^レ立^レ敵^レ軍^レを^レ破^レり^レ戦^レ死^レす^レ村^レ同^レ夕

藤^レ長^レ兵^レ隊^レ重^レ立^レ以^レ之^レの^レ清^レ水^レ口^レに^レ八^レ百^レ人
 直^レに^レ清^レ水^レ口^レに^レ練^レ出^レす^レと^レ河^レ旗^レ奉^レ行^レす^レと^レ清^レ水^レ口^レ
 上^レ野^レ表^レ士^レ隊^レ押^レ出^レす^レ以^レ廿^レ四^レ日^レ未^レ明^レより^レ戦^レ争^レお^レ成^レ
 以^レ新^レ大^レ畧^レ左^レに^レ
 最^レ初^レ大^レに^レ村^レを^レ先^レに^レ多^レし^レ山^レ上^レに^レ又^レ城^レ軍^レ屯^レ以^レ以^レた^レ
 討^レ退^レす^レ不^レ殘^レ清^レ水^レ口^レに^レ引^レ退^レす^レ敵^レ軍^レ防^レ戦^レの^レ損^レ害^レを^レ同^レ
 如^レく^レ要^レ害^レの^レ地^レより^レ最^レ上^レ川^レ羽^レ志^レ川^レに^レ狭^レり^レ松^レ林^レを
 小^レ楯^レ又^レカ^レリ^レ以^レ林^レ中^レより^レ進^レ退^レ掛^レ引^レの^レ了^レ城^レ後^レ矢^レ候^レ
 宜^レ敷^レ地^レ理^レを^レ不^レ便^レ利^レす^レと^レ強^レ苦^レ戦^レし^レ以^レ右^レ羽^レ志^レ川^レを

後リ城屯集く後、山より馳登り、城徒ハ尚杉
林之隈を退出、彼自車之紐引官軍接戦、決之
退く、お進、如右林中より密炮如、以時、候、系
手、係、死、傷、出、来、内、四、人、ハ、重、之、療、表、致、し、居、り、退、日
全快、以、事、と、其、系、以、右、終、日、炮、戦、し、て、熱、軍、一、下、先
線、上、之、同、夜、中、退、く、新、庄、表、以、隔、陣、と、お、成、以、考、細
中、上、之、及、し、別、日、紀、も、有、り、以、右、退、日、丁、甲、上、先
荒、増、上、之、後、右、之、付、取、三、日、続、氣、と、告、以、し、上、諸、家
應、援、去、性、但、然、以、如、進、玉、小、藩、殊、と、不、練、く、兵、故

小、鬼、角、固、循、遅、延、在、以、如、至、四、月、四、日、夜、城、徒、八、百
餘、人、天、臺、表、以、不、意、と、押、出、し、以、如、城、市、中、共、之、熱、烟
煙、と、お、成、中、以、右、同、亦、隊、長、系、子、勢、又、七、人、も、討、死
致、以、右、燒、拂、盡、く、山、形、以、押、寄、以、由、り、退、く、以、率
陣、退、く、以、お、進、之、楯、固、以、迴、り、以、付、又、日、新、藩、表、去
隊、繰、出、し、以、右、後、新、庄、人、數、も、係、出、し、尾、死、決、之、
出、去、双、方、對、陣、係、在、以、以、荷、も、上、郡、内、旗、奉、以、
し、て、孫、城、以、昨、日、小、東、及、又、身、と、交、代、致、し、如、
味、方、以、如、右、少、人、數、以、人、請、家、援、兵、お、存、以、内、御、時、日

岩城く人数到着す後佐竹惣助二子六百程由
 船も出立てあり仙臺表より山形と深田筑
 前兵隊も此等到着山形も出兵者大々参練盛
 二成中酒田渡へ軍艦到着し風軍越後へ
 加茂姑ノ清茂兵討入の由右風吹て昨日吹の指墨
 尾花沢出張し城後追散れし様子此等しは様子
 なる庄内討入も遠と愚考仕はた候し候し
 危く智内安心す成下は只今尾花沢より報知是
 城軍一同逃去と報も毎午由後進出座は

小越風聞

○閏四月廿七日の報告と既二本新聞の載り
 事後怪なり報知を得る風軍あり廿七日
 後も到結る戦争の要城方到着防戦す
 軍諸藩大々を以て苦戦ありと云然し大傷
 利は遂小城の陣壘柏崎も衆兵城後ハ漸
 少方ニ落退をいす
 ○尤の事件ハ本月六日夜彼の地よりの報告
 とし未だ詳しきと候也

拍崎近辺（おちかた）に落葉の城後退討のしめ推谷の
 以へ高田勢長勢妙法寺の方ハ加州勢
 三方（さんぽう）に配（たがひ）しと熱軍六日卯辰の戦を起して
 縁由に推谷の城後退本勢多度及戦城
 後退まきとる當進撃して推谷にやと押送る由
 妙法寺の方ハ劍村と率營として三徳又
 分進撃し城後討拂る交撃時お戦と戦
 城後退氣を収走せり子為愛戦争りまは
 らしと長岳の方ハ収走す妙法と近辺ハ一人

の城も溜りゆど踐りなく引退を官軍扱ふ例
 又依り勝利の勲を奏せりと

関東風聞

○徳川慶喜恭順の實効お殿上人及び家祖
 先よりの勤勞も不致為控寛大く内玉案を以
 て家名お統格祿城地も追々清沙法を作出べ
 き如回旋下及る其羽石五多勢の徒共深き
 清仁恤の朝意も不辨ゆは遠く脱走しお
 又屯集

王命コウメイにお抗かうしハ頼たのむ付大総督府より
作出しゅハケ案あんも亦またハ由よし

○右みぎ税ぜい定ぢやう際さい際さい派はい共とも法ほつ法ほつ静じやうの者ものノ京きやう初はつより鳥とり九く様さま
正ただ親ちか阿あ少せう將しやう孫そん把ば後ご長ちやう尾び様さま阿あ以い孫そん等ら人ひと殺ころ以い引ひ續つ
軍ぐん建けん下げ向むかは 作出しゅハ由よし

○薩州さつしゆ様さま及また市いち末まつ家け法ほつ法ほつ以い孫そん等ら人ひと殺ころ以い引ひ續つ
人ひと殺ころ以い引ひ連れん早さう速そく下げ向むかは 作出しゅハ由よし又また退たい
以い費ひ陳ちん之しお承まかり

○五月ごご廿にじふ七日にちハ今いま津つ退たい対たいし越こ前まへ様さまハ出しゅ

馬うまに 作しゅ付ふ負お人ひと殺ころ以い引ひ道だうハ知し張ちやうお承まかり

○籠かご太た様さま儀ぎ前まへ様さま等ら又また坊ぼう人ひと殺ころ以い引ひ下げ向むかは 作出しゅ
是こゝも退たいハ以い察さつ遠えん之しお承まかり

論ろん者しや曰い板ばん倉そう伊い賀か父ふ子し孫そん一いつ夜やハ官くわん軍ぐん之し抗かうしハ由よし
既すでニ降かう服ふくせし上うへハ其その血ちハ殊こと哉や之し多おほしハ其その在ありし御ご典てん
刑けいも不ふ死し願ねん曰い孫そん之し儀ぎハ其その下した墨すみ其その儀ぎ松しょう山さんとてハ報ほう
飛とせしハ旧きう於お之し儀ぎハ其その下した墨すみ其その儀ぎ勿な体たい亦また有ありし度た大だいの
御ご仁に意いををしし關かん東とうの人情にんじやう存ぞん 遠とほハより遠とほ工こう百ひやく
万まん生せい要やうの塗ぬ炭たん之し及またハ其その美みハ難なんケ炭たんををしし也なり

然るに早く右宛大の 津江意を諭したる
とのなり ○先月下旬に相州其勢湊に回幕
終幸遊藝隊を二百人強も上陸し一吏より送る
甲府に闖入せし ぬ高甲府取締方江津水陸
家甲の者共制をせし 却る肉通せし故今殺
水野家へ急を 津江法に強もあしけし
相冥赤兎徒今以強静すし 上より甲刃刃と
もケ能のり 出来たるを 申多事の折
括之強回漸以縮の 成りたり 冀くは大小

後伯能く自あし
朝意を家中の内士民一統に状上りし 事又
為重幼乃遠を 撰布告あり たることなり
将多し 井姓の憂は堪はず 恭望奉る 如之
上海に滞在の友人が報知
○上海に於て常コレラ病大流行して死人多し
状勢よりいふより日本の地へも傳播せんかと恐怖の
至り之全く不養生よりして傳播する故に食禁を
生法をたし 送るものなり

才一我家を掃除して清浄なるを行要之致して
 風のぬき換として我体も成丈奇業はさし一表と
 病のぬき換として衣履と足とを温め敷具をぬき十分
 汗をぬき静として思慮を省くべし掃物第一居り
 人より集る所を去る食掃油ごき物熱せざる菓物
 惣卵を括る魚は青き魚 鱈 鱈 鱈 鱈 鱈 鱈 鱈 鱈
 西丸 まくらい きくらと 掃 梨 此等の所を去る食はく
 ぐはは何をも死して腐りたるもの 例として去るなり
 衣の大概等又記せしむる今又報知を依り再い載

知新館告文

此社中ニ於テハ珍貴花ニ諸相庭物等ヲ記スノ本意ナリ
 又館外ノ人タリハ功能アル事ヲ衆人ニ示サシク或ハ書
 籍等ヲ彫刻セント欲セラルハ此社中へ御示談
 ラハ速カニ廣ク海内ニ布告スベキ者ナリ

浪華



知新館

- 大坂心齋橋本町北入
- 同 北久太郎町四丁
- 京都四条河原町西入
- 河内屋忠七
- 河内屋清七
- 山城屋勘助

弘通所

同	同	同	同	同	同	同
寺町姉小路上	富小路四条上	三条寺町西入	御幸町姉小路上	三条御幸町角	北久太郎町四丁	心齋橋北久太郎町
錢屋惣四郎	丁子屋榮助	吉野屋甚助	菱屋孫兵衛	吉野屋仁兵衛	河内屋新次郎	河内屋喜兵衛